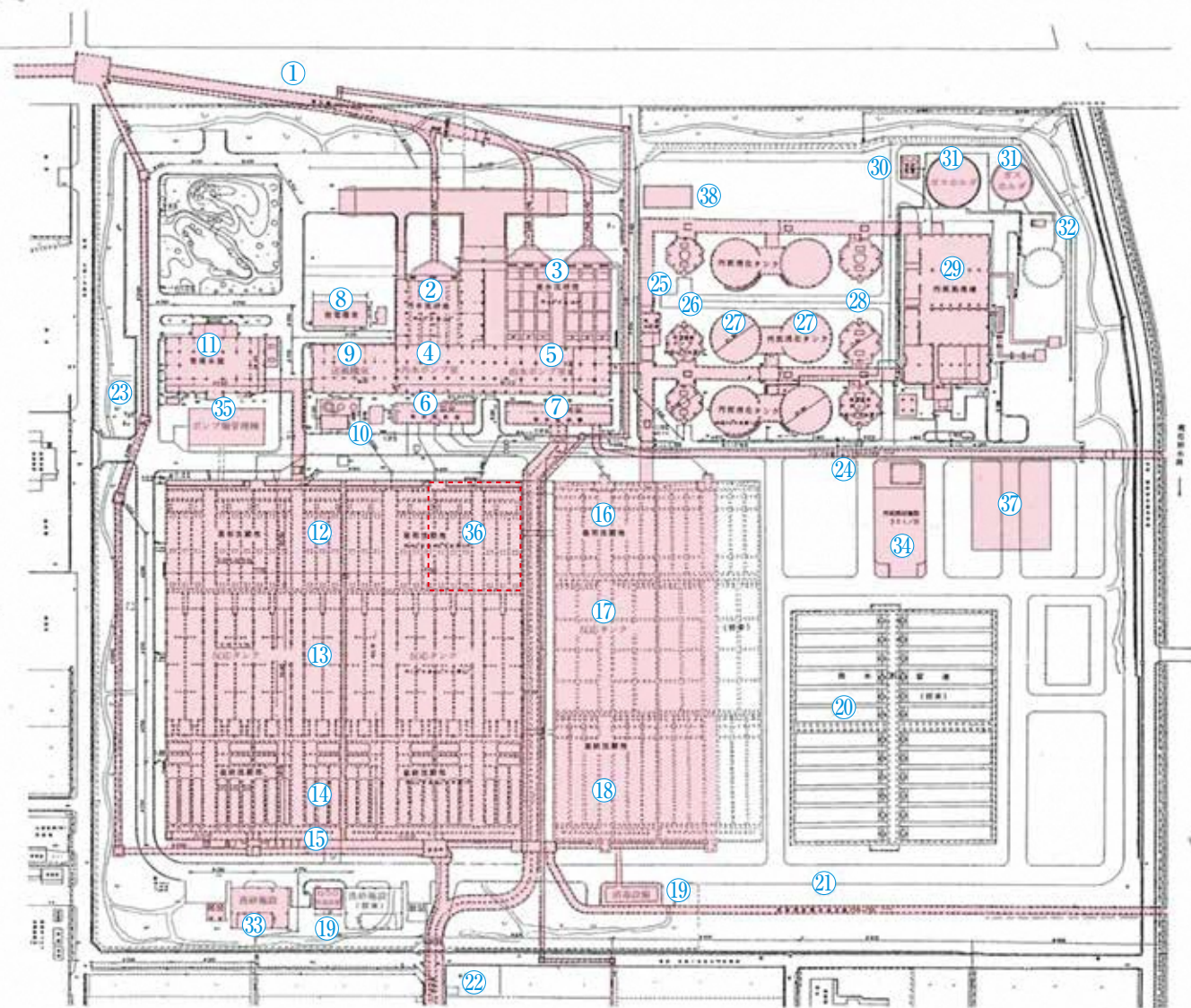


新潟市中部下水処理場一般平面図



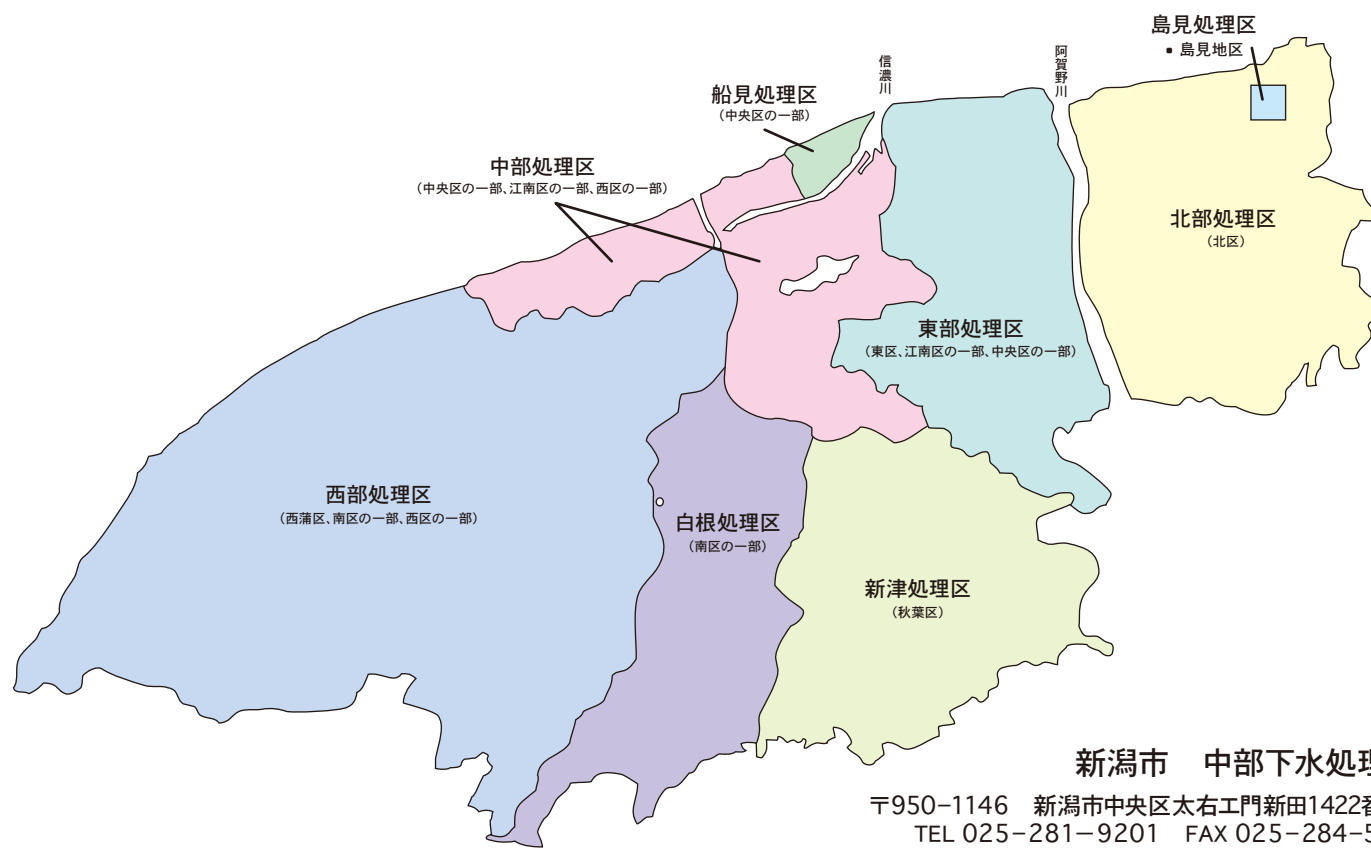
- ① 流入渠
- ② 汚水沈砂池
- ③ 雨水沈砂池
- ④ 汚水ポンプ室
- ⑤ 雨水ポンプ室
- ⑥ 汚水分配槽
- ⑦ 雨水吐出槽
- ⑧ 自家用発電機室
- ⑨ 送風機室
- ⑩ 砂ろ過設備
- ⑪ 管理本館
- ⑫ 最初沈殿池
- ⑬ ばっき槽
- ⑭ 最終沈殿池
- ⑮ 消毒槽
- ⑯ 最初沈殿池 (二階層式)
- ⑰ 深層ばっき槽
- ⑱ 最終沈殿池 (二階層式)
- ⑲ 消毒設備
- ⑳ 雨水貯留池
- ㉑ 非常用処理水放流渠
- ㉒ 放流渠
- ㉓ 信濃川水位上昇時処理水返送管
- ㉔ 非常用雨水放流渠
- ㉕ 汚泥分配槽
- ㉖ 汚泥濃縮タンク
- ㉗ 汚泥消化タンク
- ㉘ 汚泥洗浄タンク
- ㉙ 汚泥処理棟
- ㉚ 脱硫装置
- ㉛ ガスホルダ
- ㉜ 余剰ガス燃焼装置
- ㉝ 洗砂施設
- ㉞ 汚泥焼却施設 (30 t/日)
- ㉟ ポンプ場管理棟
- ㊱ 高速ろ過設備
- ㊲ 消化ガス発電設備棟
- ㊳ 刈草受入施設

下水道の全体計画



新潟市の下水道計画は、昭和43年に基本計画を策定し、将来想定市街地9,231haを対象に4処理区に大別し、整備促進に努めてきました。その後、流域別下水道整備総合計画と基本計画を見直し、将来想定市街地20,690haを対象とする7処理区（船見・中部・白根・東部・新津・北部・西部）で整備を進めています。

	処理区	計画面積 (ha)	計画人口 (千人)	備 考
単 独	船 見	466	33.0	合流 (中央地区の一部)
	中 部	4,600	235.3	合流、一部分流 (中央区の一部、江南区の一部、西区の一部)
	白 根	1,088	35.9	分流 (南区の一部)
流 域 関 連	東 部	5,314	185.6	分流、山の下水区は合流 (東区、江南区の一部、中央区の一部)
	新 津	2,200	69.8	分流 (秋葉区)
	北 部	2,859	69.6	分流 (北区)
	西 部	4,163	116.2	分流 (西蒲区、南区の一部、西区の一部)
	計	20,690	745.4	
単 独 特 環	島 見	(56)	(2.3)	分流 (北区 [島見地区])



新潟市 中部下水処理場
〒950-1146 新潟市中央区太右門新田1422番地3
TEL 025-281-9201 FAX 025-284-5849

新潟市中部下水処理場



中部下水処理場は新潟市の下水道計画区域、約21,110ヘクタール（島見を除く）の約21%にあたる4,598ヘクタールの区域から汚れた水をつめてきれいにする施設です。昭和55年から運転を始め順次規模を拡大し、現在水処理施設は1日150,400m³の汚水をきれいにするができます。

汚れた水が直接川や海などに流れ込むと、川や海の汚れる原因となります。下水処理場は、このような水の汚れを微生物などの働きにより取り除き、きれいにして川や海に返すための施設です。

当処理場は、合流式下水道の施設であるため雨天時には、雨水と汚水が混じって流れ込み、処理能力を超える雨天時汚水は、最初沈殿池で沈殿処理して流していましたが、その改善を目的とした高速ろ過設備が平成22年度から稼働しています。また、汚泥処理の過程で発生した消化ガス（主成分：メタン）を利用した消化ガス発電を平成25年1月より稼働しています。これにより場内電力の一部をまかない、CO₂削減に貢献しています。

新潟市は中部下水処理場のほか、船見下水処理場を昭和42年、白根中央浄化センターを平成16年から運転しています。また、新潟県が管理する下水道の処理場として新潟浄化センターが昭和55年、新津浄化センターが昭和56年、新井郷川浄化センターが平成10年、西川浄化センターが平成14年にそれぞれ運転されています。



下水道マスコットキャラクター「水玉ぼうし」

中部下水処理場の概要

敷地面積	17.51ha	
全体計画処理面積	4,601ha	
全体計画処理人口	235,330人	
全体計画処理水量 (晴天時最大)	147,500m ³ /日 (現在 150,600m ³ /日)	
処理能力 (晴天時最大)	160,000m ³ /日	
処理方式	標準活性汚泥法	
流入予定水質	BOD	188ppm
	SS	148ppm
処理予定水質	BOD	15ppm
	SS	14ppm